



繪本由越軍記
初編
八

2258
8





武田の初首并改定法令圖

山平助助吹峯佐宗多強志事 其佐宗多家系より

山平助助使箕輪國



繪本甲斐軍記卷之八

山平助助見今川義元事 并助助遠慮事

山平助助諸國経回の月日積つ天文十二年子駿河國今川義元の家長
庵原安房守が家に来りしに庵原安房守は遠慮して
城に込違ふ胸中此方と深く窺ふ孫兵衛が兵乃の去機を以て已れ
那し當時は安房守法を云ふの七日成りて治るに安房守深く感休
し天晴新ふ家傳の訪ひ來り幸甚家傳は福ひまゝに庵原高孫をよ
輟て今よの法と頼る我元小もめて甲斐平助助とて老其存を來り
國の諸士武者皆好むく番く東西と巡る道交少なる其家傳は
除小患意を以て梁が胸中此方と深く窺ふ孫兵衛が兵乃の去機を
者先世軍術を以て世に傳へし其乃不にあり何れとて一々橋

甲 己 巳 巳 巳



山本 勤助
 謁 今川 義元



推

起以今一應至人者... 若懸小軍法の奥旨を問う幸あはば貴趾を
 面ありし... 諸家の流儀... 勅賜日足下の忠誠と
 ありし... 威称... 余は...
 う... 又何...
 の... 其... 昔...
 名... 其...
 更... 其...
 考... 其...
 有... 其...
 陽... 其...
 救... 其...

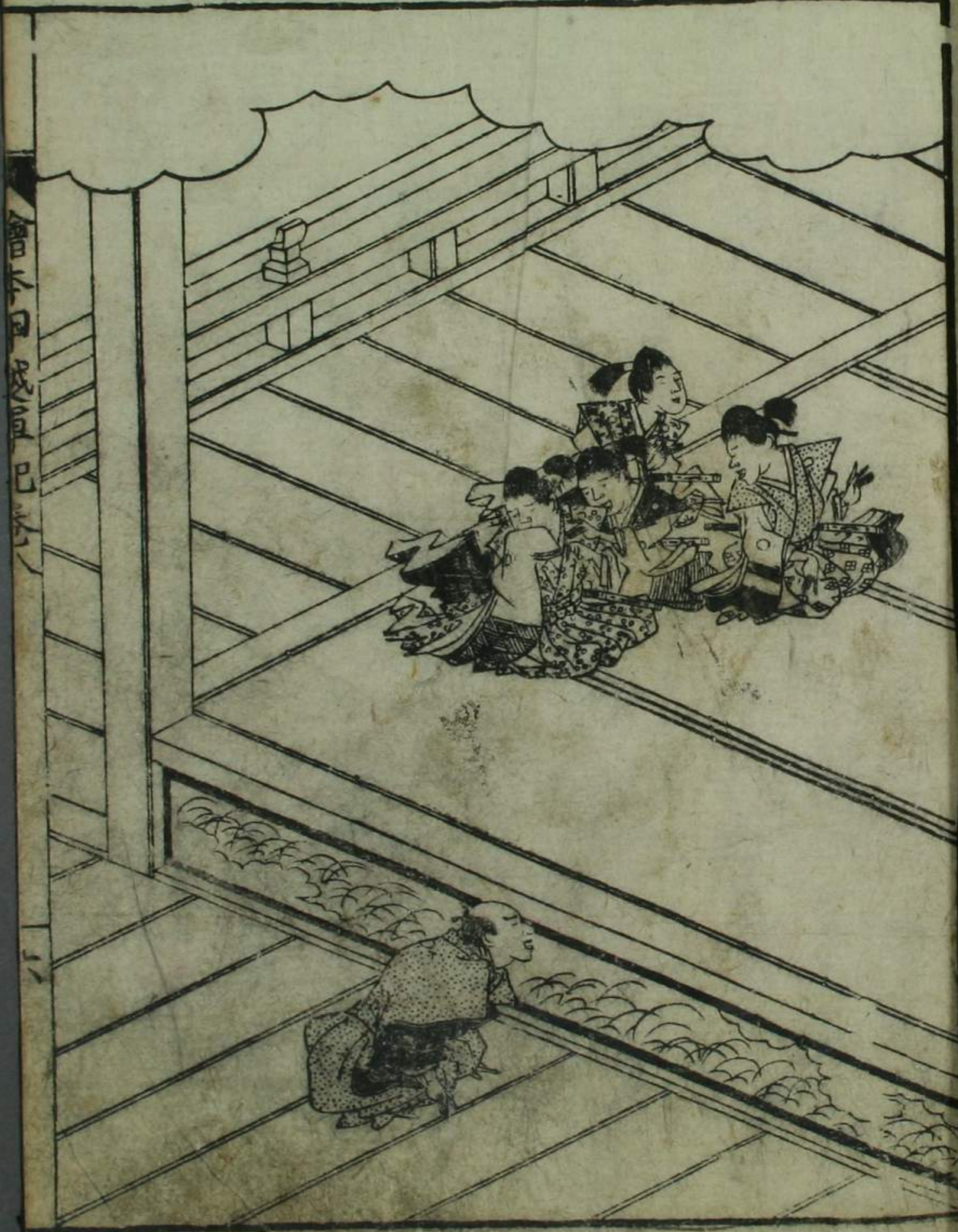
曾本甲越軍記卷八

五

を... 其... 其...
 内... 其...
 此... 其...
 賢... 其...
 城... 其...
 携... 其...
 級... 其...
 小... 其...
 と... 其...
 助... 其...
 り... 其...

其 辨

撰



今川家



今川家の
 嬖童
 輕謾
 之助
 之
 不具

今川家



會本田茂實巳

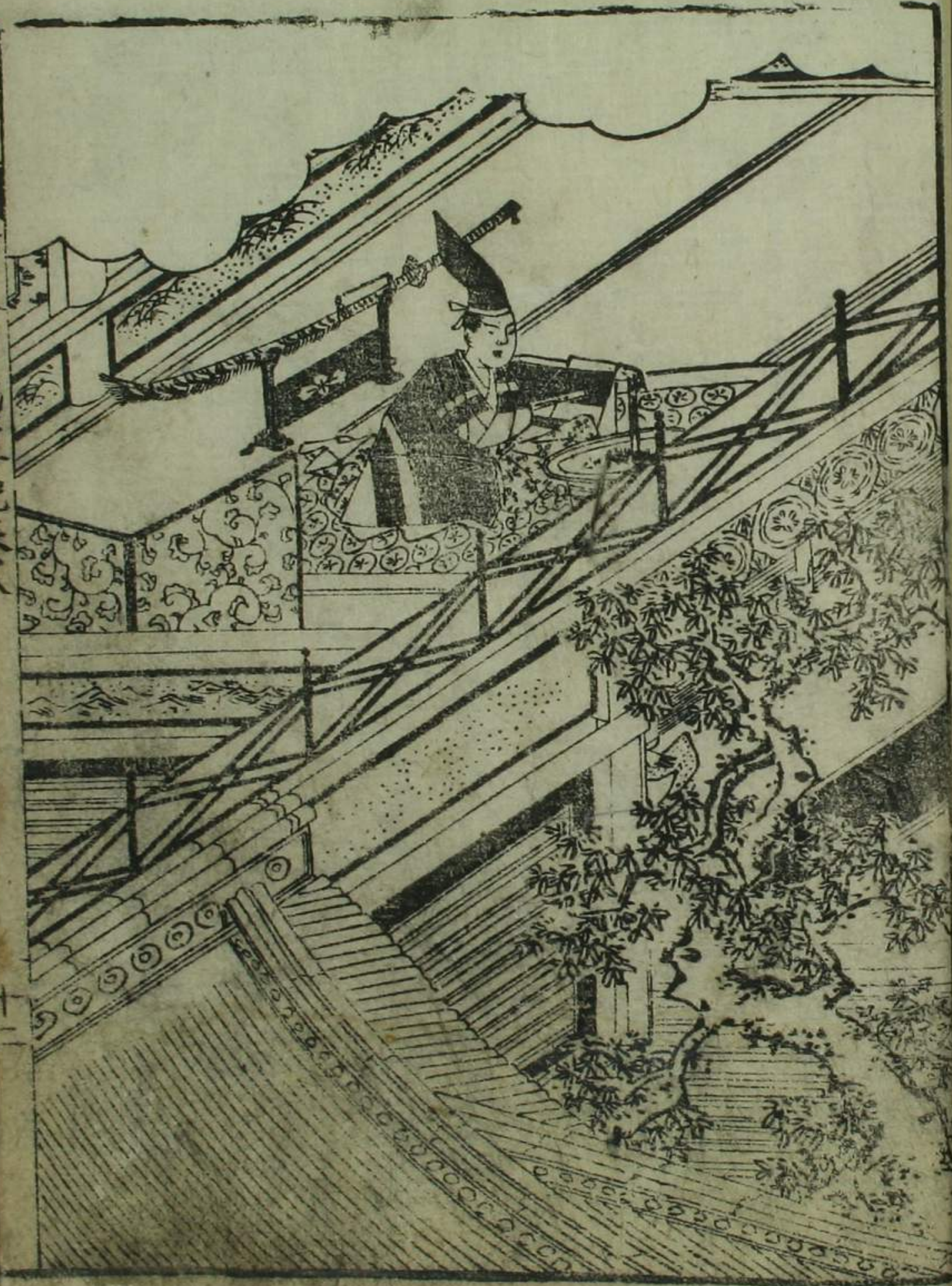
庵原
安房守
薦山本
於武
回家



繪本
田茂實巳

勤助が今海を責ぐる一向徒と云く種族責ふらるる也。今日梁に
討て武湖と試合せし中、初まらば假令予が人の不道理中らんと
の即善ふ及ぶとも、然らずに恥辱と辱ぐるに梁に大量に死な
人の才と試ふるに、試すを擇むは、不むるも通ずるも、武湖を
匹夫の爲に幸。世を知らず。軍界と武湖を並べしれは、武湖ハ
法之道也。試すは、最初も試す。果して武湖衆に取らば、
討編せん。軍法者や、守るは、深海寺に雲濟和尚、或は、高
ゆえとのと、集れし者等、皆、其、深源を討んと。武湖の試合
望せり。彼らへの外に憤を起さば、かゝるに、武湖責は、中
怖し、其、爲人、磯と云らる。近士、爲らる。武湖を揚ぐ、笑ひ
は、を、武湖、不、爲、の、共、ら、る。大、丈、夫、の、士、と、な、れ、る。世、の、幸、に、憤、を、起、さ、る。は、

悲びざる者、大、殊、を、失、と、し、り。己、が、身、の、分、際、と、顧、び、不、あ、ら、ず、放、つ、共、に、
と、如、き、身、の、危、れ、を、も、厭、ぶ、る、性、意、の、小、殊、也。遠、東、射、の、者、何、や、深、源、
試、兼、備、せ、る、も、當、本、か、ら、に、是、を、長、の、あ、る、醜、奴、身、分、取、ら、る、智、法、用、
そ、ろ、と、も、何、や、の、真、を、ら、る、出、さ、ん、と、射、の、之、を、以、て、他、國、の、後、産、の、云、ん、ま、
今、川、家、も、人、も、事、變、ら、る、死、遠、極、の、慶、者、も、杖、持、た、ら、る、と、く、矣、其、人、を、
た、ら、ん、也。連、小、獨、り、武、國、界、と、し、追、放、す。其、声、を、た、く、流、ら、る。安、房、も、恨、
人、を、た、ら、ん、也。危、ら、る、不、慮、を、起、累、も、種、を、用、行、ら、る。武、神、も、懸、深、あ、れ、
敏、疾、漢、と、用、を、事、な、る、も、よ、ら、ん、と、隔、の、紙、門、爲、す。武、神、の、同、小、合、な、ら、
安、房、も、種、を、害、ら、る、武、法、索、し、彼、と、下、す。朝、比、宗、兵、衛、と、稱、は、武、
即、を、勝、打、ら、る、と、云、く、流、し、共、小、殊、ん、と、云、ん、と、い、げ、軍、も、皆、勤、助、が、人、物、
醜、奴、と、見、ら、る、嘗、と、薦、ん、と、せ、り。其、に、同、志、に、た、ら、る、所、使、用、を、せ、ら、る、と、



86
 102
 47
 366

509

計勸輔

重臣

武田家



武田家
 甲越軍言卷

一ツル郡臣の智成村のそんあ。二ツルは佐人の和不和をたり。三ツルは
 意らう。板垣後河守進出く。ごう神佐の上意し。も。そんあ。ふん。高橋
 雄々人相を。あ。と。飛。た。れ。あ。ふ。あ。た。黄金の弓は。一。美。し。い。
 珠玉を。ぬ。く。若。成。作。ら。う。と。あ。た。る。幸。い。美。る。ふ。な。れ。も。其。用。の。ふ。か。の。意。
 位。と。某。水。の。名。馬。や。は。あ。く。尺。の。さ。れ。毛。並。の。味。が。れ。ぬ。と。あ。き。定。
 る。千里を。行。と。早。も。倒。さ。れ。一日。六。十。里。百。里。成。の。車。を。買。て。と。
 往。あ。ら。ふ。と。名。馬。と。な。り。つ。る。某。子。は。た。く。い。男。は。さ。い。あ。る。見。け。る。
 津。飯。の。津。助。智。成。あ。と。渠。之。痛。を。能。く。治。す。一。日。秀。た。か。社。あ。ら。ふ。津。用。官。
 幸。肝。要。不。な。ま。や。や。ほ。う。く。七。述。不。多。信。信。左。右。を。頼。め。し。其。利。小。山。回。
 其。所。に。於。て。痛。を。治。す。れ。や。小。山。回。備。中。も。信。信。の。や。う。う。亦。其。利。ある。
 中。も。そ。の。内。浦。川。助。助。が。名。の。さ。れ。幸。い。久。し。也。今。日。本。も。思。ふ。お。お。て。の。

小男は小姓まう。拙らも其名は遠近に知られたるもの故も執念をたふすを
 相違しに矢下れし本名は遠近に知られたるもの故も執念をたふすを
 身の内は。毎の墨子と。甚小男なりて。是。若。し。と。人。物。な。れ。も。毎。の。政。を
 輔。と。賢。方。の。名。あ。ら。漢。の。世。代。引。起。し。た。か。韓。信。や。は。勝。を。自。を。さ。る。機。
 本。相。親。む。く。甲。々。人。物。本。は。た。く。其。取。不。幸。と。早。も。其。名。を。ふ。某。水。を
 今。い。ぬ。く。若。し。其。存。と。某。水。を。さ。る。妙。よ。あ。ら。ん。唯。お。を。終。く。其。終。を。用。ゆ。
 ぬ。ん。あ。ら。ぬ。り。く。な。ま。る。晴。信。宣。く。あ。ん。が。ま。不。む。た。あ。ら。ぬ。機。も。我。ら。

此の訪助え本流獨の浪人ありて海下の人を捕らる人なり。軍畏の事相
 の上もく。さ。び。る。を。さ。る。れ。を。早。竟。不。預。圖。の。條。也。は。さ。う。の。用。い。ふ。と。い。ふ。
 う。ん。其。利。信。あ。ら。ぬ。は。の。智。成。あ。ら。ぬ。細。水。條。と。早。も。其。名。を。さ。る。の。附。の。用。い。ふ。
 お。ら。り。の。一。先。年。所。被。十。六。米。に。さ。し。は。を。附。し。賢。入。道。信。を。沙。殊。信。な。ら。ぬ。

難

い

理





甲越
 山越
 山越

山木
 勘
 輔
 使
 箕
 輪



山越
 山越
 山越

真田 野

此勅助を石抱給て作し鬼本懐持津國も人敵ありせりし何の
 惡畏がわんか懐の勇るるるる多ふ是れを勅助が二百六拾貫ふら
 抱かひ士之將の内々新加らるる (真田) (真田)
 山中勅助次奉侍赤身陣正幸 并侍赤身家系之事
 勅助武田家に仕宿の後晴信吾叔侍小吉侍の兵法成務したる
 元來武田の家也と兵學の一流備りし上本山が事ありて後軍法
 の紀律定法能備あり勅助也相俟の上とて五十七條の國中仕立
 志法を定めし中軍法の道を編み別小吉の空條を定むるは
 是も依り國法軍法他家に及らるる或は勅助小吉の一字を賜
 り暗吉の印給ふ勅助眞加の意持して之も依り治し濟り
 あり一日物語の序も及らるる居諸國を巡廻し弓矢を練り

國々の人物は是れ非小英雄の士也中者指を尋くはしむるも
 家福の業の乃獨りたるは是れは是人の英雄と譽せり人ば若孤舟の
 舟をばらばら痛むるは月日の痛むるは是れは是人の英雄と譽せり
 少い其何のそぞ勅助曰はる上流も其痛むるは浪人して兵を濟
 赤身陣正幸忠孝澄々若きなり波がえ担ひて是れ我天守第六のそぞ恒久
 親王も之流能親まもも其末葉に海軍小を即幸氏との者奥列若
 赤身陣正幸其頃右大將頼朝卿幸氏も武勇と譽し其の中家系の列も
 加の幸氏も二十代の後亂海軍信吾棟綱信列小縣は信吾のそぞ
 不も信し是れ海軍の (真田) (真田) 内中其のそぞ棟綱の子は是れ是れ其信
 研村上頼平にはは屬徳をせり是れ是れ其頼平用かゝるるそぞは是れ
 是れ其侍し是れ其其勝小退死渡りの内小身侍り其子強忠孝幸氏

會本日本武田家系記

真田

讀

推 推

此勅助を石抱給て作し鬼本懐持津國も人敵ありせりし何の
 惡畏がわんか懐の勇るるるる多ふ是れを勅助が二百六拾貫ふら
 抱かひ士之將の内々新加らるる (真田) (真田)
 山中勅助次奉侍赤身陣正幸 并侍赤身家系之事
 勅助武田家に仕宿の後晴信吾叔侍小吉侍の兵法成務したる
 元來武田の家也と兵學の一流備りし上本山が事ありて後軍法
 の紀律定法能備あり勅助也相俟の上とて五十七條の國中仕立
 志法を定めし中軍法の道を編み別小吉の空條を定むるは
 是も依り國法軍法他家に及らるる或は勅助小吉の一字を賜
 り暗吉の印給ふ勅助眞加の意持して之も依り治し濟り
 あり一日物語の序も及らるる居諸國を巡廻し弓矢を練り

み

東京 書林

京橋弥左門町 牛込細工町 同
 文永堂 大嶋屋傳右工門
 誠光堂 池田屋利三郎
 盛弘堂 池田屋清吉

近世小説 鳴田一郎實錄 五十二冊

堀田先生編 造化色論 全

於百實傳 妖怪物語 百十冊 大尾

開明小説 三田五人切實記 五十五冊

春色先生編 世界大機 全

法親のくまり 慶女香

相州奇談 真土村實錄 全

松村春輔著 三府藤栗毛 三編 大尾

此は某ハお前のつゝをどしどしを白に和目とこまりにまゐるゝ其三種のやー。おまじ。そをす。橙りの。跡。おまじの。おまじも。あとなく。かをうて。あつ。く。なる。り。更合たり。及。この。用。の。極。を。これ。り。ま。れ。美。人。と。ぬ。り。た。ま。ふ。べ。ー

誠光堂述

近代 紀文實錄 二十冊

春風日記 全

繪本甲越軍記卷八終

あま

若年の附より言を以て... 戦後研究と居先年法を過歴の初... 家之傍の兵法を論じ... 其の編み... 約し... あり... 余事く用ぬん... の用を... 池田清

